

# 信濃川水系松本圏域河川整備計画(黒沢川)(原案)に関する学識経験者からの意見及び県の考え方

## 第1章 対象流域と河川の現状

節		意見内容	対応方針・本文修正内容
第1節 流域の概要	①	流域面積に対する森林(山地)の割合を示して下さい。	約60%が森林山地です。本文へ追加します。 ◆本文修正◆ P1 流域の約60%を占める森林には雑木林や杉などの人工林が多く、中・下流域の扇状地においては、リンゴを主とした果樹栽培が盛んである。
第2節 河川整備の現状と課題	②	黒沢川は近年も梅雨期や台風等による出水が多く浸水被害が生じている。したがって、黒沢川の流れを犀川へ流下させるために、中流域における調節池及びあづみ野排水路への接続工事は早急を実施する必要がある。推進に賛成である。	早期の事業化に向け取り組んで参りたい。
	③	河川利用に地域住民との連携は、今後一層の推進が必要であろう。	一層の連携を推進して参りたい。
	④	水道水源は地下水に頼るということだが、そうなると安曇野の場合は地下水の涵養が重要となる。	課題として、本文に追加します。 ◆本文修正◆ P5 第4項 河川利用 (関係機関及び地域住民との連携) 黒沢川を接続する万水川には、1団体(平成22年度現在)の河川愛護団体があり、河川清掃、草刈、河川パトロール等を行っているが、今後、更に河川環境の保全を推進する必要がある。 また、洪水時の雨量、河川水位等の水文情報の関係機関への確実な伝達や、沿川住民が安全に避難できるよう地域が主体となる水防体制の確立が望まれる。 また、万水川下流域においては、地下水を利用したワサビの栽培や鱒の養殖が盛んであり、地下水源の保全が求められている。

第2章 河川整備計画の目標に関する事項			
節		意見内容	対応方針・本文修正内容
第1節から第5節	①	河川整備計画の目標に関する事項は適切と思われます。	
第2節 計画対象期間	②	国営安曇野広域排水事業は平成17年に完成している。また万水川の改修工事も平成21年に終了している。安曇野の優良農地を水害から守り、安全、安心な郷土にするための事業であるので一日も早く黒沢川の尻無し状態を無くしてほしい。	早期の事業化に向け取り組んで参りたい。
第5節 河川環境の整備と保全に関する事項	③	漁業関係の立場から、この河川には「イワナ」の稚魚の放流を毎年実施しており、河川改修に際しては治水・利水対策だけでなく、環境に配慮した多自然型工法を取り入れ、水性動植物の保護・繁殖に留意すべきと思う。	ご意見を踏まえ実施設計の段階で環境に配慮した設計として参りたい。 なお、整備計画(原案)では、P7のとおり記述しております。
第3章 河川整備の実施に関する事項			
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	①	調節池の整備、河道拡幅、河床掘削により流下能力の確保・洪水から家屋や農耕地への浸水防止をしていくことはよい。	
	②	流量配分図の流量の説明を、『上段:基本高水流量、下段:計画高水流量』としたらどうか。	修正します。 ◆本文修正◆ P8 上段( ):基本高水流量(調節前流量) 下段 :計画高水流量(計画流量)

第3章 河川整備の実施に関する事項

節		意見内容	対応方針・本文修正内容
<p>第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要</p>	③	<p>可能な限り生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した改修を基本とするとありますが具体的に考えられることはどのようなことがあるか。親水施設のイメージはどう描いているか。</p>	<p>自然石等を用いた多自然型工法を採用するなど、河川環境に配慮した護岸構造を考えております。(具体的には資料4の附図4の様な構造など。)親水施設は水辺に近づけるように、階段工の設置等を検討して参ります。</p>
	④	<p>調節地は、室町からの赤沢橋付近から、コンクリートが丸出しの池の景観が見えることは望ましくない。池の周りの樹木をうまく生かすように配慮いただきたい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、実施設計の段階で景観に配慮した設計として参りたい。  <b>◆本文修正◆ P9</b>                      河川工事の実施にあたっては、可能な限り生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した改修を基本とし、河川環境の保全や<b>周囲の自然環境・景観</b>に配慮した整備を行う。</p>
	⑤	<p>黒沢川とあづみ野排水路の接続区間235mについて要望したいこと。                      ・排水路岸(道路側)に花壇ができるスペースをとることが出来るとよい。                      ・排水路両側にできそうな空き地を、公園的に整備し、住民が管理等できるとよい。</p>	<p>花壇スペースなど景観対策については、実施設計の段階で住民の意見を聞きながら検討して参りたい。</p>
	⑥	<p>調節池の標準断面図で、事故が起きない程度の水深の水をため、ゆっくり浸透して川へ或いは地下水涵養に寄与するような構造として頂きたい。水際には、エコトーンが整備されているとよい。そうすることで水辺の生態系が創出され、環境改善にも貢献できる。水に親しむことのできる親水設備と言う事ですから、階段等も必要ではないかと思えます。</p>	<p>ご意見を踏まえ、実施設計の段階で配慮して参りたい。  <b>◆本文修正◆ P9</b>                      必要に応じて、生物の生育環境を保全し、水に親しむことのできる親水施設の整備を行うとともに、<b>できるだけ地下水の涵養に寄与できる施設構造を検討する。</b></p>
	⑦	<p>調節池について、先日現地を視察させて頂きました。適地を選定されたと感じた。ただし豊かな自然がいっぱいなので環境に配慮した工法で整備し、住民の憩いの場にもなるようにできないか。取水堰から調節池までの導水路は自然が残るようできるだけ暗渠で整備してほしい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、実施設計の段階で住民や関係者の意見を聞く中で配慮して参りたい。</p>

第3章 河川整備の実施に関する事項

節		意見内容	対応方針・本文修正内容
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	⑧	調節池の河原周辺の林は雑木林で、クヌギやヤナギ、ニセアカシア、アカマツで構成され、陽が良くあたり、池予定地は草地である。 雑木林では、ノコギリクワガタ、コクワガタ、ミヤマクワガタやカブトムシ、オオスズメバチ、キイロスズメバチ等の樹液を好む昆虫が多く集まり、公園的要素があるので、子供たちの集まりなども考えておいて欲しい。	ご意見を踏まえ、実施設計の段階で住民や関係者の意見を聞く中で配慮して参りたい。
	⑨	調節池は広い面積で、水が新しく溜まるので、新しい水辺水域が造られるので、この水場を求めてカモや水鳥の仲間の飛来や、トンボや昆虫類もここに集約することが考えられる。この水辺をめぐるどのような新しい生物が来るか検討して欲しい。	現計画では平常時水が溜まる構造としてありませんが、ご意見を踏まえ、親水や景観等の面からの水の活用については、可能な範囲で検討して参りたい。
	⑩	調節池底を計画レベルより掘り下げるなどして、調節池で利水容量を確保し地下水涵養用水として利用できないでしょうか。実質的にダムと同じ機能を持つので駄目でしょうか。	基本は、治水対策を主眼に規模等を決めていくこととなりますが、こうした制約の中で、どの程度まで実施可能か国等関係機関と協議して参りたい。

第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

第1節 河川情報の提供に関する事項	①	洪水ハザードマップの周知について 周知とは弱者を含めた全住民の安全性が確保されるシステム体制を整えることと考えます。	洪水ハザードマップについては、22年度に安曇野市において土砂災害を含めた最新版を作成し、今年の4月に全戸配布しておりますが、災害時要援護者等を含めた住民への周知については、防災訓練や避難訓練に併せた啓蒙など方法について市と検討して参りたい。 ◆本文修正◆ P11 特に災害時要援護者関連施設に対しては、県・市の関係部局が連携し、警戒避難体制の構築を支援する。
-------------------	---	---	---

第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

節		意見内容	対応方針・本文修正内容
第1節 河川情報の提供に関する事項	②	ハザードマップの周知にあたっては、降雨規模により、場所により発生が予想される事象に差があるので、それを踏まえた対応ができるように地元説明する事が大切だと思います。	地元説明会の際には、ご意見を踏まえた内容について説明して参りたい。
第2節 地域や関係機関との連携等に関する事項	①	森林を整備して森林の保水機能を増加させて、洪水流出量の低減を図る。――30年に1回程度の確率洪水ですと森林の保水機能も効いてくると思います。また、多少とも地下水涵養にも寄与すると思います。	本文に追加します。 ◆本文修正◆ P12 第3項 関係機関及び地域住民との連携 (1)流域が本来持つ雨水の保水機能や地下水かん養機能の保全・向上については、関係機関と連携し、情報共有を図る。
	②	河川愛護団体の活動で、特に万水等下流部の活動において、河川清掃する場合、コカナダモ等の外来種と沈水型エゾミクリやバイカモなどとは区別して対応して頂いたほうが、サケ科魚類の自然産卵環境保全にとってよろしいと思います。何でもいっしょくたに流れから除去してしまうと、結局は外来種のみが残ってしまう結果につながる恐れがあります。	河川管理の参考とさせていただきます。また、河川愛護団体にも情報提供して参りたい。
	③	3項について、どのような方法で地域住民への呼びかけをし、活動場面をつくっていく見通しかお聞きしたい。	事業説明時や工事施工の段階において、アダプトプログラム等への参加を呼びかけて参りたい。

節		意見内容	対応方針・本文修正内容
その他について	①	B/Cを示して下さい。	現段階においてはB/Cは算出しておりません。この整備計画(案)が承認され事業を実施していく段階で算出して参ります。
	②	治水面ではダムから調節池に変わったが、黒沢川に水利権がないなかで利水面はどう考えているか。	安曇野市が平成21年10月に策定した『安曇野市水道ビジョン』に従い、水道水源は地下水に転換することとしており、現在調査を実施しております。
	③	調節池より下流の黒沢川本流は地下浸透が激しい。どこで、どれだけの河川水が地下浸透しているのか、量的な変化を知りたい。	そのような調査を行っていないため、資料がございません。